

2019年度 競泳競技国際大会選考方法

◆第18回世界選手権大会(韓国・光州 7/21-28)

[選考方法]

- 1、選考競技会を日本選手権(辰巳・4/2～8)とする
追加選考競技会をジャパンオープン(辰巳・5/30～6/2)とする
- 2、選考は、第18回世界選手権大会競技規則に基づいて日本水泳連盟選手選考委員会があたり
編成方針(日本水泳連盟が決定する)に沿って総合的な判断により選考する
- 3、リレーの選考は、別途考慮し選考する

*個人種目で金メダルを獲得した選手は、その種目に限り2020年オリンピック競技大会出場権を付与する(選考会同種目出場を条件とする)

- (1) オリンピック種目で派遣標準記録Ⅰ・Ⅱ突破者(優勝及び2位)及びリレー標準記録突破者
- (2) 50m背泳ぎ・平泳ぎ・バタフライで派遣標準記録Ⅰ突破者

◆第30回ユニバーシアード大会(イタリア・ナポリ 7/4～11)

[選考方法]

- 1、選考競技会を日本選手権(辰巳・4/2～8)とする
- 2、選考は、第30回ユニバーシアード大会競技規則に基づいて日本水泳連盟選手選考委員会があたり
順位、記録、種目間の較差を考慮し選考する
- 3、参加有資格者は大学在学中(学生委員会登録者)及び対象年齢卒業生(インターナショナルC突破)、
年齢は18～25歳とし、最高2回までとする。
(1994年1月1日生まれ～2001年12月31日生まれ)
- 4、リレーの選考は、別途考慮し選考する
- 5、編成方針は日本オリンピック委員会が決定する。

*世界選手権個人種目出場者は選考しない。但し、ジャパンオープンにおける追加選考において
選考された場合はその限りではない。

◆第7回世界ジュニア選手権(ハンガリー・ブダペスト 8/20～25)

[選考方法]

- 1、選考競技会を日本選手権(辰巳・4/2～8)とする
追加選考競技会をジャパンオープン(辰巳・5/30～6/2)とする
- 2、選考は、第7回世界ジュニア選手権競技規則に基づいて日本水泳連盟選手選考委員会があたり
編成方針(日本水泳連盟が決定する)に沿って総合的な判断により選考する(1種目・1国2名まで)
- 3、参加有資格者は、FINAルールに準ずる女子14～17歳・男子15～18歳(2019年12月31日を起算とする)
(女子2002年～2005年、男子:2001年～2004年)
- 4、編成人数は未定とする。
- 5、世界選手権出場者の参加も認める
- 6、本大会参加の意思は確認する

*スケジュールの都合上、全国中学・インターハイ・夏季JOには出場できない。

◆第9回アジアエージ選手権(インド・ハイドラバード 9/22～10/3)

[選考方法]

- 1、選考競技会をジャパンオープン(辰巳・5/30～6/2)とする。
- 2、選考は、アジアエージ大会競技規則に基づいて日本水泳連盟選手選考委員会があたり
編成方針(日本水泳連盟が決定する)に沿って総合的な判断により選考する
- 3、編成は、大会要項に沿って選出する。
- 4、本大会参加の意思は確認する

*世界ジュニア選手権代表選手は出場できない

◆ワールドカップ

1. インターナショナル以上の選手の自費参加とする。
日本大会は別途考慮する
第1クラスター:8/2～4東京(50m)・8/8～10済南(25m)・8/15～17シンガポール(25m)
第2クラスター:9/27～29アイントフォーヘン(50m)・10/4～6ブダペスト(25m)
第3クラスター:11/1～3カザン(50m)・11/7～9トーハ(25m)

◆選抜遠征(場所:AUS予定)

1. 書類選考とし、平成31年度日本水泳連盟ナショナル選手標準記録突破者以上とする
2. 選考は、対象競技大会競技規則に基づいて日本水泳連盟選手選考委員会があたり
編成方針(日本水泳連盟が決定する)に沿って総合的な判断により選考する
3. 編成人数は、最大20名とする

◆ジュニアブロック遠征(シンガポール・3月)

1. 選考は、各ブロックに一任とし、日本水泳連盟に推薦し、日本水泳連盟選手選考委員会が選考する
2. 参加有資格者は、中学生及び高校生とする(インターナショナル・ナショナル以外とする)
平成13年4月2日以降に生まれた者(平成31年4月2日を起算とし、18歳未満の者)
3. 編成方針(日本水泳連盟が決定する)に沿って総合的な判断により選考する
4. 編成人数は、40名とする(各ブロック4名 男女、中学・高校各1名ずつを原則とする)